

**させほ夢大学**

発行●公益社団法人 させほ夢大学  
編集委員会  
事務局 / 〒857-0863  
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F  
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545  
http://www.yumedai.com/  
E-mail:sasebo\_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

# 夢のつづき

## させほ夢大学会報

No.302 (2021・4)

令和3年度  
第1回

2021年4月15日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

1部 開場 13:30  
講演 14:30 (終了16:00)  
2部 開場 17:30  
講演 18:30 (終了20:00)

今年は、させほ夢大学創立30周年という節目の年。その幕開けにふさわしく、講師は元外務事務次官で現在、立命館大学客員教授、大阪大学特任教授である藪中三十二さんです。

藪中さんは1948年生まれで大阪出身です。外務省入省以来、韓国、インドネシア、米国、在外交館勤務、国際戦略問題研究所、アジア太平洋局長、外務審議官などを歴任。現在では、多くの執筆や講演活動、新聞、テレビを通じて、日本の進むべき道について発信を続けておられます。

藪中さんは大学で教鞭を執りながら、グローバル人材を育成する私塾「藪中塾グローバル寺子屋」を主宰しています。世界で活躍する若者の人材育成に努められ、自らの専門分



野である「外交問題」のみならず、「環境問題」「データ社会にまつわる問題」「ジェンダー問題」など、幅広いテーマで、「若者よ、世界へ」という思いが感じられます。

約40年間の外交官生活を通して、今の日本に求められているのは、問題を直視し、痛みや困難から逃げずに、突き進む勇気と覚悟が必要で、行政、政治にかぎらず、国民すべてに求められていること。

著書の中でも、これからの日本は、超グローバル社会へ進展して、世界に通用するような人材の育成が必要と述べられています。

「世界に負けない日本」という本日のテーマ。国民の一人として私たちはどうすべきかを見つめなおす機会になりそうです。乞うご期待!

やぶなか み と し

講師 ● 立命館大学客員教授 **藪中 三十二氏**

テーマ ● **世界に負けない日本 — 国家と日本人が今なすべきこと**



### 次回のご案内

■と き / **5月30日(日)** [1部] 13:00~14:30  
[2部] 16:30~18:00

■講 師 / 脳科学者 **中野 信子氏**

■テーマ / **脳を科学する — 世界に通用する人がいつもやっていること —**

●東京都出身。東京大学工学部応用化学科卒。同大学院医学系研究科脳神経医学専攻博士課程修了。フランス国立研究所にて博士研究員として勤務後、帰国。2015年東日本国際大学教授に就任。現在、脳や心理学をテーマに研究や執筆活動を精力的に行い、科学の視点から人間社会で起こりうる現象及び人物を読み解く語り口に定評がある。メディアでは、テレビ朝日「ワイド!スクランブル」、NHK BS プレミアム「英雄たちの選択」、フジテレビ「ホンマでっか!?」等に出演。小説新潮に「孤独な脳、馬鹿になれない私」を連載中。

**講演会は1日2回開催です。詳しくは裏面のお知らせを必ずお読みください。**

会報紙「夢のつづき」は、2021年4月号より夫婦・家族学生の方には、一世帯につき1部の発送となります。

藪中三十二氏のプロフィール

●大阪府生まれ。外務省入省。1973年コーネル大学卒業。韓国、インドネシア、米国大使館勤務、国際戦略問題研究所研究員、アジア大洋州局長、外務審議官などを歴任。外務事務次官を経て、現在、立命館大学客員教授、大阪大学特任教授。また、グローバル人材を育成する私塾「藪中塾グローバル寺子屋」を主宰している。主な著書に、「世界基準の交渉術」「世界に負けない日本」など多数あり。



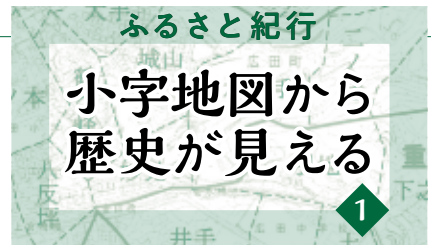
## 大切なお知らせ

- 4月15日の講演会は、新型コロナウイルス感染による3密を避けるために、**1日2回講演**にて実施します。**第1回目講演は14時30分から、第2回目講演は18時30分から**です。
- 1回目講演と2回目講演の振り分けは、**4月に送付している「入場証(4月分)」**に記載しています。
- 各講演の時刻表等を記載した**入場証に、必要事項をご記入の上、学生証と共にご持参ください。**
- ご入場の際は、手指消毒・検温をしますが、**体調の悪い方は入場をご遠慮ください。**
- できるだけ不織布マスクを着用し、会話は控えてください。**
- ホールの客席は一席ずつ空けてお座りください。また、席取りはご遠慮ください。
- 1回目と2回目の入れ替え時には、ホール座席等の消毒及び清掃をしています。
- 携帯電話等の各種電子機器は、電源を確実にお切りください。**
- 学生ご本人が欠席で代理出席の場合も、必ず、学生証と入場証をご持参ください。もし、両方ともない場合は、万が一、感染者が発生した場合、補足追跡ができませんので、入場をお断りすることになります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



「包丁落(ホウチョウウオトシ)」という所が針尾にある。誰がいつ包丁を落としたのか気になる地名である。宮の萩坂町の「目玉(メダマ)」は誰の目玉? タヌキかな、朝ノ木免の「背広(セビロ)」は背中への広い体格のいい人の姿が目に見える。知見寺町の「犬殺(イヌコロシ)」は誰なのこんなことをするのは、浅子町の「時計」とは。どれも登場人物が出て



### 小字(こあざ)について

佐世保史談会副会長  
宮崎 勝秀

きそうな地名である。宮の城間町「後藤四郎」は、ずばり四郎さんが出てくる。小字地図を見ているといろいろな出来事が浮かんでくる。

このような地名のことを「字(あざ)」という。字には「大字(おおあざ)」「小字(こあざ)」があり、前述した地名は佐世保市内の「小字」である。佐世保地区の大字は免・郷(宮地区)にあたる。

明治二年(一八八九)頃の市制・町村制施行時に以降四回の町村合併で免は村・町に変わっていく。

小字には地形・動物・植物・人物・歴史に関わる小字が多い。広田町の「宮崎」は住吉宮の宮のある岬で「宮崎」だろう。江上町の釜釜地のある所は「釜」というが「お釜」の形の地形から付いた小字と考えられる。小字に「平」が付く所は傾斜地が多い。「原」は広い開墾地、松瀬町の岩下洞穴がある「岩下」も岩のある地形が小字になっていそう。

日本では字は田畑・山林などの小名(こな)として平安時代の荘園文書にあるが、小字は太閤検地以降制度的意味を持つようになり、田畑の耕地、山林や採草地など経済的な土地の単位としていくつもの村の集落や耕地を指す地名である。所属する字は土地一筆ごとに記載された。

佐世保の小字の古い記録は、江戸時代の『明暦二年田方帳抜書』がある。内容は



一六五六年に田になつてゐる所の小字を免ごとに記述した帳面で、現在の小字と違う小字もある。後に昔の出来事に関連する小字地名に変わったともいわれる。

小字が消え去っていく中、小字の記憶を残そうと佐世保市郷土研究所が昭和五十一年『佐世保市小字地図』を発行した。その後間違いを修正し佐世保市と北松の合併町の小字地図も入れ、平成二三年『改訂版小字地図』を発行した。どちらの本も市立図書館で見ることが出来る。佐世保市のホームページでも検索できる。

「小字地図から歴史が見える」というテーマで、小字からどんな歴史が見えてくるかを考えていきます。今回は宮の小字「鬼塚」について、それ以後は「御前畑」「城山」「赤子新田」など順々に触れていきます。果たして小字地図から歴史が見えるでしょうか。

**講演を聴かれた感想をお待ちしています!** 600字程度にまとめて、させば夢大学事務局まで、郵便・FAX・メール等でお送りください。締切日は原則として、講演日の1週間後の木曜日(必着)です。